

諏訪湖の石彫公園の岸辺に大きな和服姿の像が立っています。名は八重垣姫といい、人形浄瑠璃の主人公として明和3年(1766)年5月、大阪の竹本座で初演された「本朝廿四孝奥庭狐火の段」に、上杉謙信の娘として登場します。実際には謙信に娘は居ないので、架空の人物とされていますが、

武田信玄の側室の娘で、上杉謙信の養子・景勝の正妻となった菊姫がモデルとも言われています。

菊姫は諏訪の血をひく武田勝頼にとつて義理の妹に当たる姫という事になります。勝頼は諏訪頼重の孫であり、その名ははじめ諏訪四郎勝頼とされました。物語の主人公八重垣姫は、菊姫同様に和睦のための政略結婚という背景を持っています。

公演開始と同時に大人気となったこの演目「廿四孝」は、孝の文

字からも推察できるように、いくつかの孝行の話で構成されています。「本朝」とは「日本の」といった意味です。歌舞伎にも使われ、雪姫(祇園祭礼信仰記) 時姫(鎌倉三代記) とともに「三姫」と呼ばれ、現代も愛されている姫です。

いわゆる「時代物」と呼ばれ、この物語以前にも、近松門左衛門が武田氏と上杉氏の興亡を描いた「信州川中島合戦」があり、大人気となっていました。武田氏・上杉氏との興亡の歴史が、江戸時代の上(大阪)において、すでに大人気となっていたこともあってか、同じ武田家と上杉家にまつわる八重垣姫の物語も一気に人気に火がついたようです。

今夏は八重垣姫像のライトアップが行われます。 随時掲載 詳しい場所などの問い合わせは



諏訪市の石彫公園近くの諏訪湖に立つ八重垣姫像

諏訪塾事務局(電話070・8323・2107)へ。



ぶらり諏訪塾の冊子は

諏訪市観光案内所

(JR上諏訪駅内)

れすとらん割烹いずみ屋

(諏訪市諏訪)

書店「言事堂」

(諏訪市末広)

すわ大昔情報センター

(諏訪市博物館内)

諏訪書店(通販のみ)

57・0997)

柏屋カフエ&ギャラリー

(諏訪市中洲神宮寺)

で販売中です。

今回の筆者



矢崎裕子さん

同人誌「蠟」会員。狼煙会やまちなか案内人などの市民活動を通じて修行中